冬の室内あそび

―私の組のこの頃のあそびから―

関　治子

冬の陽ざしを受けて、のどかに充分に遊ぶ子どもたち――これは想像するだけでも楽しいものです。しかし、この頃は、庭一面に霜がおり、肌をさすような北風が吹きすさんで、子どもたちは指をかじかませています。冬のあそびは、寒さと重ね着の為、運動量に不足するだけに大いに活発なあそびをして貰いたいとは思いますが、静的なあそびか、ややもすると滅茶々々な室内あそびになりがちです。

風のない暖い日には、先生の意図は勿論のこと、子どもたち自身、思う存分庭に出てかけ廻ったり、日向ぼっこに顔をほころばせますが、庭の状態と、この頃の気候とからみて、室内あそびの場合を考えてみる事に致します。

一室に四十人近くの子どもたちが、意のままに遊んでいます。三才児のように年令の小さい場合は、友だちあそびもグループが小さく、時には一人で好きなことをし、或は友だちや先生のする事に見とれたりしています。その中で数人になったグループでは、面白い事が始って、声をたてて喜び、はしゃぎ廻っています。一方、五才児は、近く幼稚園を終るというだけに、あそびは計画的であり、グループも大きくなって連続性を持って来ています。子どもたちはいろいろなあそびを創造しては、一見同じようなままごとあそびの中にも一日一日変化を持っているようです。近頃ではグループが大きくなり、男児のグループと女児のグループが一緒になり、終いには組の大半が一つのあそびに夢中になっているのをみかけます。興にのったあまり、「夢中」は「大騒ぎ」へと移り、子どもたちの一団は大挙して廊下やゆうぎ室へと空間を求めて拡がり、周囲の事など、眼に見えず頭にも入りません。遂には滅茶々々な大騒ぎになってしまって……。私にはこのような経験が随分ありました。自己の不勉強や性質上でしょうか、今の担任の組では、室内あそびは苦手でした。力が強かったり、我儘であったり、社会性がない、協調性がない、自己主張が強いなど、個性の顕著な子ども

が多くてなどというのは、多勢の子どもの中には当然あるべき事で、こういう組だから、騒がしくなりがちで……というのでは、全く力量不足の弁解になってしまいそうです。第一、こんなに一人一人が生命に躍動している姿に対して申し訳ないし、これ程張り合いのある事はないでしょう。これらの危懼はありがたいもので、子どもたちの成長や動きによって救われ、私には一つ一つの尊い新しい体験となって参りました。

何の意味もないような馬鹿騒ぎのようなあそびに「ああ大変だ。こんな事をして……。これは止めさせなくては。」と思って、あそびの経過もみずに阻止、禁止してしまったら、その時の結果としては大騒ぎは止むでしょうが、子どもたちの胸の中は、むしろ不満だけが残って、何かの形で吐け口が向けられると思います。もし、私が興味のある好きな事をしていて、急にたち切られたとしたら、その欲求不満は相当大きなもので、精神的には随分マイナスになると思います。まして、純真な子どもの心には、それが傷になってしまうかも知れないと思い、危険なことと、他への迷惑には注意して、なるべく禁止しないでみたらと思いました。

一体、こうしたあそびは、(私はいわゆる自由あそびを指しているのですが)どの程度指導を加えるべきか、子どもの意のままにさせるべきか、その事自体がわからなくなってしまいました。ともかく放任ではない、しかし、自由ではある筈だなどと反問しながら、「幼稚園真諦」の頁を繰りました。『…自由あそびの中から色々なしっかりした内容の生活が始まることもいいことですが、出来る丈指導要素の多く加わらない、まして教導が多く加わらない幼児自らの自由感に満ちた時間を以て幼稚園生活の一日を出発させたいものです…。』『…人間には自由を求める自然の要素があると同時に、自分の生活に向ってあるまとまりを求める自然もあるものです…』自由にというのでは、はき違えてしまうおそれもありましょうが、子どもたちが自由感をもってあそぶ姿、それを保たせなくてはと教えられ、又、自由を求めるのは自然の要求だから阻止は出来ない。更に、あるまとまりを求める自然の要求もある。こういう事を読むにつけても、まだまだ私がそれらをどういう態度で臨んでしまったか、反省はあるにしても、何か本質的な理論を教えられて、子どもたちの日々の姿を、大きな眼で見守れるような気持になりました。

子どもたちの乗った車が、はめを外し過ぎてしまったら、子どもたち自身にブレーキをかけて貰いましょう。これが私の小さな決心でした。この頃の年長組の子どもへの私の願いですし、又約束でした。こういう事は、あそびの中で無意識のうちに子どもに考えさせている事になるでしょう。自由の中に、責任も持たせている事になるでしょう。子どもたちは、精神年令の進歩と社会生活の経験とから来たものでしょうか、いろいろな友だちに加って精一ぱいにあそんでいるようです。滅茶々々あそびに

なってしまうあそびを転換させているようです。子どもたちと共に、声のボリュウムをあげていってしまった私、本当に恥しく思います。自己の姿を反省する事が出来るのは、本当に子どもの姿からだと痛感し、ありがたく思いました。深い反省を行っている間にも、子どもたちはどんどん進歩して、やがては幼稚園も終ろうとしています。いろいろなあそびをくり返し、生み出し、応用して居りますが、この子どもたちが、この頃好んでしているあそびを書き記してみます。

○お家ごっこ

二軒の家、それにお店も加って、電話の応答、紙幣つくりをします。

○クレヨンずもう（便宜上この名をつけました）

クレヨンや短い鉛筆を机の上に二本立てて、拳でとんとん叩いて勝負をつけます。鉛筆やクレヨンは折れる心配もあり、勿体ないので、紙や石を入れたりして、これに類似したものを作ってします。

○トランプ・ゲームあそび

年末からお正月にかけての家庭あそびの影響で、堅めの紙でトランプをつくり、ばばぬきを主にします。くじのようなゲームをつくって、友だちとひき合います。

○紙芝居ごっこ

えをかく事の好きな人の要求に始り、小型に切揃えた紙を用意し、創作話や物語などを紙芝居のようにかきます。友だち同志、紙芝居ごっこで説明し合います。字に興味があってかける子どもはかいていますし、かかない子どもも沢山います。却ってよく説明しています。自分のつくったものには所有慾強く、えの不得意な子どもも真似してつくっています。

○おもちゃつくり

特に先生が意とせずに、厚手、薄手の紙や糊を用意します。汽車・舟・自動車・駅・トンネルなど立体的なおもちゃを興をもってつくっています。

○写真屋ごっこ

写真機をつくって写し、えにかいておいた写真を渡します。

○積木で乗物あそび

床上積木と小さい積木を併用して航空母艦と飛行機・消防自動車・汽車の内部など、小動物を運転手やお客に使用しています。

○わとび

藤製のわをいろいろな距離や形に並べて、片脚とび、両脚とびとルールを作って一列に並んで順々にとびます。

○かくれんぼ

室内では空間が限られていますので、小動物を使ってかくれんぼをしています。

○足ふみ鬼

円陣で手をつなぎ、鬼が足をふみ、ふま

れた人が次に鬼になります。手を離さない方が面白いようです。

○ハンカチおとし

円陣でしゃがみ、鬼が円周を廻って、一人の後にハンカチをおとします。おとされた子どもは気づかなければおまめとなって中に入っています。気づいたらすぐにそのハンカチを持って、又誰かの後におとしに行きます。円周の子どもはふり返ってみないようにし、絶えず気をつけています。

○だるまさんころんだ

鬼が目を閉じて「だるまさんころんだ」という間に、皆はスタートラインから鬼の方へと前進します。鬼が皆の方を向いた時に動いた人は鬼と手をつなぎます。誰かが鬼にさわったら、皆はスタートラインの方めざして戻り、鬼は「ストップ」をかけて何歩かで捉まえ、その人が鬼になります。

○ひっぱりっこ・おしくら

二組に分れ、夫々一人ずつ出て足を固定しひっぱったり、掌で押し合うかします。先に足の動いた方が負けになり、その組は一人人数が少くなります。人数の多い方が勝ちます。

○花束つくり

庭の柄葉や毛糸、紙ひもなど集めては、紙にまいて花束をつくります。

その他、えをかいたり、片隅では踊ったり、幼稚園ごっこや、さくらさくら、はないちもんめなど、何回も何回も連日のようにくり返されるものもあり、又、今挙げた中にも好ましくないものもあるかも知れませんが、なるべく子どもたちの中から出たあそびで、この頃、好んでしているあそびを挙げてみました。又、こうして形になってあらわせないあそびも、自由あそびとして大切なものがあると思います。そんなあそびもよく観察するべきで、又教えられる所が多い事と思って居ります。

（お茶の水大付属幼稚園）

新刊案内

文学博士　武政太郎先生監修
玉成高等保育学校長　有院扁良先生校閲

玉成高等保育学校幼児保育研究会編

フレーベルの恩物の理論とその実際

A5判　330頁
定価　450円
箱入上製本
〒32円

フレーベル先生が創造された恩物について，著者の多年の研究の結果が，平明に説かれている。恩物の研究家，ならびに幼児教育者必読の書！

株式会社 **フレーベル館**